

「韓国の歴史と社会Ⅰ」

地域みらい学科 韓国語文化コース

長澤雅春

1. 教育の責任

2020(令和 2)年 4 月に韓国語文化コースが設置されたが、本科目はその翌 2021 年に 1 年次後期科目として新設されたものである。それまでのグローバル共生共生に内包されていた期間は韓国語教育に力点を置いていたため朝鮮半島の歴史及び社会についての教育は行っていなかった。

しかし、いわゆる韓流コンテンツの隆盛によって韓国史は本コース入学者にとって身近な関心分野となっており、また韓国留学を目的とする入学者が大半を占める本コースにおいて、韓国の儒教社会の理念や習慣、家族を中心とした人間関係や歴史に基づく現代社会の様々な様相を知ることが、留学に際して現代韓国を体験する上でも重要な力点となっている。

これは、学習成果の評価項目⑨「韓国文化に関する知識(深い理解)と技能が身に付いている」に関連している。また、毎回の授業ではミニッツ・ペーパーの提出をさせて、授業後学習の習慣とさせている。

2. 教育の理念

韓国語文化コースは全国の短期大学でもあまり類を見ない韓国語教育と韓国留学に注力したコースである。そのため、韓国語 4 技能(「話す」「聞く」「書く」「読む」)教育というまでもないが、韓国文化の理解として朝鮮半島の歴史及び現代に見せる社会(文化・政治・儒教・日常生活等)の様相は、本コースにおいて韓国(語・文化・歴史)を学ぶ者にとって留学前の重要な知識を得る科目となっている。

また、高校において学習してきた日本史・世界史についての知識に加えて朝鮮半島を中心とした

歴史を知ることによって、自己を東アジアの一人としての自覚を促すものとなる。ここの数年の傾向として、韓国留学を経験した者のうちから韓国での就職を希望する者が増えてきている。長期韓国滞在者となる上でも、朝鮮半島の歴史や韓国社会の文化を知っておくことは重要だと考えている。

3. 教育の方法

展開時期は 1 年次の後期である。これは、まだグローバル共生コースの一部だった韓国語分野時代の「韓国文化研究Ⅰ」(1 年次前期開講科目)を引き継いでいたため、開講当初は 1 年次後期となったものである。だが、朝鮮半島の歴史は長く、また社会や文化的要素を含んだ内容となるために、2022(令和 4)年度より前期後期と分けて連続性を持つ「Ⅰ」「Ⅱ」とした。これによって、それまで簡略されたものから、余裕のある学習展開を行うことができるようになった。

いまや、韓流文化コンテンツの普及によって史劇ドラマによる朝鮮史は、韓国に関心を持つ若者にとって身近なものとなっていることに驚く。それは、とくにドラマを通じた三国時代(高句麗・新羅・百済)・高麗時代・李王朝時代の王朝物への好奇と強い関心となっている。だが、韓流史劇はエンタテインメントとして創作部分がかなり増幅されているため、史実を知ることが重要である。当該科目では、下記の到達目標を念頭に中国史を取り入れながら朝鮮半島史を古代から朝鮮王朝までを辿ることにしている。

①韓国の歴史について俯瞰的な知識を得ることができる。

②韓国と中国、日本との歴史的関係について理解することができる。

③韓国の現代社会的な問題と課題について理解することができる。

④韓流ドラマ(歴史劇)の背景をより理解することができる。

これらの目標に到達するために、市販の教科書は用いず、自作の PPT を用いて地図と人物画像を多用し、歴史的事柄の展開地域を把握・理解しやすいようにしている。このことによって、履修生たちの好む韓流史劇ドラマの歴史的背景への理解は興味とともに確実なものとなっていく。

毎回の授業終了後にはミニッツ・ペーパーを提出させており、これによって授業の理解度を本人が確認でき、また疑問・質問については次回授業時の冒頭に PPT を使用して回答することになっている。

4. 教育の成果

毎回の授業終了後には「受講ノート」としてミニッツ・ペーパーの提出を義務付けている。記述項目は「1. あなたにとって学び・気づきになったこと(受講感想)」「2. 自分にとって学びとなったこと」「3. 質問したいこと」の3項目としてある。また、授業の理解度を自己点検するために「4. 本日の授業は理解できましたか(複数回答可能) ①分からなかった、②難しかった、③まあまあ理解できた、④よく理解できたと思う」という項目を入れてある。たとえば、第3回目授業「高句麗の建国神話と朱蒙」におけるミニッツ・ペーパー提出内容を揚げれば下記表になる。

履修者数 16	①	②	③	④
回答数 16	1	4	8	3

「ドラマ『朱蒙』は小さい頃よくみていました。歴史背景が詳しくわかったのもう一度見てみようと思いました」とあるように、復習的な意味合いがあって、隣国の歴史を身近に受け止めている傾向にあるといえる。

もちろん、履修生は韓国語文化コース在籍生だけではなく他のコースや交換留学生も履修できるが、

履修者のほとんどは韓国語文化コースの在籍生となっている。

5. 今後の目標

当該授業は朝鮮半島史のみならず、中国史・日本史にも関わりを持ち、さらには社会・文化にも踏み込んだ授業となっているため、15回という回数では李王朝初期までの展開となる。履修生からは近代にも踏み込んでほしいという要望が散見されるため、ある程度は簡略化して近代にまで及ぶようにしたい。だが、短期大学での講義として、どこまで日韓関係踏み込んでよいものかについてためらうところがないとはいえない。また、前回授業でのミニッツ・ペーパーにおける質問への回答も進度を遅らせている要因ともなっているため、どこかで効率化を図ることも必要となっている。今後は、対話形式をどこかで導入してみることも目標としたい。